

市町村制度融資担当者に聞く

中小企業の未来をひらく

孺恋村
TSUMAGOI VILLAGE

制度融資

地方創生の流れの中で、地域経済において市町村が果たす役割が、これまで以上に大きくなってきています。本連載では、群馬県内各市町村の、制度融資担当者に登場していただき、制度融資を中心に、中小企業施策全般について、考え方や方向性、具体的な施策等をお伺いします。
今回は、孺恋村観光商工課を訪れ、佐藤課長と小林係長にお話を聞いてきました。



GUEST

佐藤幸光 様

観光商工課
課長

小林千速 様

観光商工課
係長



観光商工課の皆さま

上段左から 田辺主事補、小林係長、佐藤課長

下段左から 宮崎事務局長、

三ツ野地域おこし協力隊員、黒岩主査

Q. 中小企業施策の基本的コンセプト・考え方等をお教えてください。

本村は、県北西部に位置し、西・南・北の三方を長野県と接し、浅間山・四阿山・白根山などの標高2,000m級の山々が連なり、日本の大分水嶺をなしております。気候は、年間平均気温が8℃前後であり、また、1日の寒暖差が大きいことも特徴です。気温・湿度は、避暑地に最適で、浅間高原には一大別荘地が形成されております。

本村の主産業は、農業と観光で、土壌に火山灰土の腐食土が多いことから高原野菜の栽培に適しており、夏秋キャベツの生産量は日本一になっております。

村内には、万座・鹿沢を始めとする温泉地や日帰り温泉施設、またスキー場も4カ所あり、GWまでスキーなどを楽しむことができます。

浅間高原には、東京ドーム10個分の広さに15万株のシャクナゲが咲き誇る「浅間高原シャクナゲ園」があり、5月中旬から6月上旬にかけてシャクナゲ園まつりが開催されます。また、鹿沢地区には、天然記念物に指定されている「湯の丸山レンゲツツジ群落」があり、6月～7月にかけて朱色のジュウタンが広がります。どちらも周辺環境とも相まって、ここでしか感じられない唯一無二の景色を堪能することができます。スポーツイベントとしては、NO1 HARD RACEとして全国ランニング100撰にも選出され、毎年沢山の方々にご参加頂いている「嬭恋高原キャベツマラソン」が今年も7月1日(日)に開催されます。

嬭恋村は、ロマンティックな村名の由来から愛妻家の聖地として、愛妻の丘でのイベント「キャベツ畑の中心で妻に愛を叫ぶ」(通称キャベチュー)や村内の愛妻スポットを巡る観光キャンペーン「妻との時間をつくる旅」の実施、「妻との渴きを潤す水」やキャベツ酢を活用したサイダー「愛妻(あいさい)ダー」の販売など、ユニークな取り組みも行ってあります。

村の中小企業施策としては、制度融資を中心に資金調達の支援と中小企業の振興を図ってきました。少子高齢化や後継者不足などにより事業者数の維持も困難な面がありますが、補助事業を新設するなど支援策を充実させることなどにより村内中小企業の活性化を図っております。

Q. 中小企業向け制度融資メニューをお教えてください。

本村では、群馬県と提携した小口資金融資制度により、村内の中小企業に対して、運転資金、設備資金の融資を

行い、経営安定を図る目的で制度融資償還利子の一部を補助しております。

主な制度融資の保証実績 (単位:件、千円)

制度名	年度	保証承諾		保証債務残高	
		件数	金額	件数	金額
小口資金	29年度	11	45,583	38	137,905
	30年4月末	2	7,141	37	135,892

Q. 制度融資以外の、中小企業や創業者向けの施策を教えてください。

本村では、今年度から小規模事業者の支援策として、嬭恋村小規模事業者支援事業持続化補助金を新設いたしました。

販路開拓又は業務効率化を行う村内小規模事業者への支援を通じて、競争力強化と産業振興を図ることを本補助事業の趣旨としております。

今後は、商工会や村内金融機関にも協力を頂きながら本補助事業の積極的な利用促進を図っていきたく思っております。

また、創業・第二創業の推進に係る補助事業につきましては、平成28年度から実施しておりますが、これまで申請要件の難しさなどから活用を頂けておりませんでした。この様な中で、補助事業の活用を図る観点から、商工会の担当者の方々にもご意見を頂き、一部見直しを行いました。これにより、今年度は現在のところ1件申請を頂き、補助が決定しております。

Q. 今後の中小企業施策や制度融資に対する思いを教えてください。

村内の中小企業の現状につきましては、経営者の高齢化や後継者不足などにより、効果的な打開策が見いだせておらず、なかなか将来が展望できない厳しい状況にあると感じております。そんな中で、村としましても、制度融資を始め、幾つかの事業を通じて村内中小企業の支援を行っておりますが、周知不足などが原因で十分な活用が図られていない面もございます。基本的なこととなりますが、地域の金融機関・商工会等の関係団体と連携し、ご協力を頂きながら、まずは支援策の周知・利用促進を図った上で、これまで以上に関係団体や中小企業経営者の方々との意見交換も行いながら、村として何ができるのか検討を行い、厚みのある効果的な支援を引き続き実施していきたいと考えております。